

6 給水

本震の発生直後から、役場駐車場、光の森町民センターなどで給水活動が行われました。給水活動は自衛隊や大津菊陽水道企業団、他自治体の応援により行われ、住民の皆さんに飲料用の水が配布されました。特に上水道が復旧するまでの間は多くの人々が給水場所を訪れ、長蛇の列を作りました。



7 炊き出し

町や地域婦人会、ボランティアが炊き出しを行いました。発災直後は役場駐車場や階段踊り場で作業を行い、おにぎりやみそ汁を避難者に振る舞いました。多い時には、朝夕1,000個ずつのおにぎりを作りました。

また、町内外の飲食店も避難所などで炊き出しを行い、多くの町民に心温まる料理を提供しました。



8 救援物資

本震の発生直後から、国や自治体、企業、各団体・個人から水、食糧品、衛生用品、ブルーシートなど、数多くの救援物資を頂きました。一方、物資の受け入れや保管、各地への配送には課題があり、受援体制の確立が必要です。



9 消防団

消防団は、前震の発生直後から災害対策本部や地域で活動を行いました。

消防団員は、住民として自らも被災していましたが、住まいや職場の復旧を行いながら、被害情報の収集や救援物資の配布業務を行っていました。



10 自衛隊

本震の後に発生した2度目の震度6弱の地震を受け、町は県を通して自衛隊の派遣を要請しました。自衛隊は到着直後から多岐にわたって活動を開始し、給水車による水の配布や炊き出しのおにぎり作り、(仮称)光の森多目的広場での仮設風呂の提供、学校や避難所への物資の配送など、5月10日までの25日間にわたって支援をしていただきました。

